

第6節

都市デザイン

1. 現状と課題

緑豊かな六甲山、美しい海、西北神の田園などの恵まれた自然環境や、変化に富んだ明るく開放的なまちなみなど、神戸には多彩で魅力的な空間が数多くあります。このような美しい自然環境やまちなみをまもり、そだて、つくり、そして次世

代に引き継いでいくことは、我々の責務ともいえます。そのために、にぎわいと楽しさにあふれ、市民や来訪者がやすらぎやこちよさを感じられる魅力ある都市空間づくりを、協働と参画により進めていく必要があります。

2. 基本方針

神戸のまちを「デザイン都市」にふさわしい美しさや魅力を備えたまちとしていくためには、市民一人ひとりが、山や海などの恵まれた自然環境や異国情緒あふれるまちなみなど、多彩で特色あるまちをまもり、そだて、つくるとともに、「デザイン」の視点で磨きあげていくことが大切です。

港、異人館、酒蔵、温泉、田園などの神戸の特徴的なまちなみを、そこでの人々の活動や営みなどを含めて保全・育成するとともに、自然景観と市街地景観が調和する良好な眺望景観を大切にすることにより、魅力ある景観形成をめざします。

また、多様で深化した観光・レクリエーションのニーズに対応するため、何度訪れても楽しめ、

学びがあるよう、自然・歴史・ライフスタイルが作り出した神戸ならではの観光資源を磨き、文化芸術を活かした賑わいの創出など、多彩さを加えていくことをめざします。そして、来街者でにぎわう持続可能なまちをめざし、集客観光の前提となるおもてなしの充実をはかります。

そして、子どもや高齢者、外国の方など、誰もが安心して快適に暮らし、訪れることができるまちづくりを進め、「ひと」が集い、その「知」の力を交流・融合することにより、将来にわたって神戸のまちの魅力を維持し発展させていきます。

市民・事業者・行政が協働して、「住んでよし。訪れてよし。」のまちの美しさや魅力の向上に向け、神戸のまちに愛着と誇りを持ち、様々な取り組みを進めます。

3. 施策の方針

(1) 神戸固有の多彩で特色ある景観の形成

①変化に富んだ地形特性を活かした眺望景観の保全・育成

神戸は、港と六甲の山並みが市街地と一体となった景観や西北神地域の豊かな自然と田園集落の景観など、変化に富んだすばらしい眺望景観に恵まれています。「神戸らしい眺望景観50選10選」を基本に、それぞれの地域ごとに景観特性に応じて、建築物等の高さや幅の規制誘導、視点場の修景整備、電柱電線・屋外広告物などの眺望障害要素の整理などの取り組みを進めます。

<元町1丁目交差点（大丸前）から錨山を眺める見通し型眺望景観>



<ポートアイランドしおさい公園から六甲の山並みと市街地を眺める見晴らし型眺望景観>



②神戸らしい特徴的なまちなみの形成

北野、旧居留地、南京町、都心ウォーターフロントなど重点的に景観形成をはかる地区について、景観法や都市景観条例を活用して、まちづくり団体等と連携しながら、地域特性を活かしたまちなみの形成に取り組みます。

また、環境形成帯では、周辺のまちなみや自然環境を含めて、神戸の都市のシンボルにふさわしい空間づくりを誘導します。

他の地域においても、住宅地や商業・業務地、工業地などの土地利用や地域特性に応じて、調和のとれたまちなみの形成をはかります。

<北野のまちなみ>



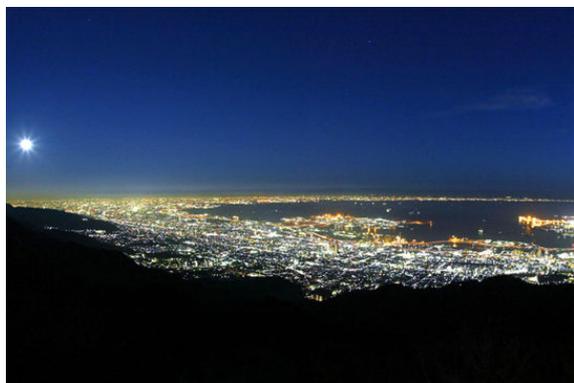
<旧居留地のまちなみ>



③特色ある夜間景観の形成

神戸の夜景は「一千万ドルの夜景」として親しまれており、神戸らしさを表す大切な要素です。地域の個性を活かしながら、ランドマークとなる建物・公共施設やウォーターフロント、河川、道路などにおいて、照明による効果的な演出をはかることで、神戸の夜間景観をより魅力的なものにしていきます。また、多くの人が夜間景観を楽しむことができる視点場等の環境整備を進めます。

<掬星台からの1千万ドルの夜景>



④農村景観の形成

農村地域の良好な景観を形成していくためには、人と自然とが共生した緑豊かで活力ある営農環境の保全・育成が不可欠であることから、里づくり協議会等による集落の活性化の取り組みと連携した景観形成を推進します。また、市街化調整区域の幹線道路沿いでは、建物や屋外広告物などが自然や周辺環境と調和したデザインとなるよう、規制誘導をはかります。

<雄岡山を望む田園風景（西区）>



<南京町のライトアップ>



<茅葺民家の残る農村風景>



⑤公共空間のデザイン向上

道路、公園、港湾、河川などの公共空間はまちの骨格を構成し、景観に与える影響も大きい重要な要素です。これらは、機能性、快適性や、来街者に対するおもてなしの表現なども含め、専門家によるデザインアドバイザー制度により、デザインの質の向上をはかります。

<六甲せせらぎ通り>



⑥建築物等の優れたデザインの誘導

建築物や工作物は、公共空間とともに景観を構成する大きな要素であり、多くは民間のものです。

神戸のまちの特性を活かした神戸らしいデザインとしていくため、さらに優れたデザインを引き出すためのしくみづくりに取り組みます。

<神戸らしさを考えてデザインする>



⑦歴史的建築物などの保存活用の促進

地域のシンボルとなっている、近代建築物や地域文化を伝える古民家などにおいて、継続的な利用や新たな機能を加えた活用を促進することにより、良好な状態で保存するとともに、周辺地域と一体となった景観形成にも取り組みます。

<旧神戸生糸検査所>



⑧周辺環境と調和した屋外広告物の規制・誘導

屋外広告物はその機能上、目立つよう設置されるため景観の重要な構成要素であり、地域特性をふまえて形態・意匠の規制・誘導を行う必要があります。地域ごとに合意形成をはかりながら、地域特性を活かした実効性のあるルールの方策に取り組みます。

<モザイクの屋上広告（第21回景観・ポイント賞受賞）>



(2) 交流やレクリエーションを支える空間づくり

緑・海辺のシンボルエリアなど都市近郊にある自然や、歴史のあるみなと、酒蔵、温泉など、神戸固有のまちの資源をデザインの視点で磨きあげ、交流・融合や市民のレクリエーションの場としての魅力向上をはかります。

①都心・ウォーターフロントの魅力向上

「デザイン都市・神戸」の具現化をはかるリーディングエリアの1つとして、都心とウォーターフロントを一体化し、神戸の魅力を世界に発信していきます。

ウォーターフロント都心となる新港突堤西地区では、芸術・文化機能を中心とした複合的な都心機能を導入し、新たな価値を生む創造産業や文化が生まれる場を創出するとともに、人々がにぎわう新たな都心として、神戸のブランドイメージを高める場の形成をはかります。

また、旧神戸生糸検査所の転活用をはじめ、これまでみなとまちの発展を支えてきた倉庫群などの近代建築物、くし型突堤などの歴史的建造物など地域の資源や、海に面するロケーションなどを最大限に活かし、歴史の重層性が感じられる魅力的な空間を創造します。

そして、港に面したプロムナードをはじめ、道路、広場、交通施設などにおいて、質の高いホスピタリティにあふれた公共空間のデザインを導入し、市民や来街者が気楽に訪れ、みなとまち神戸を満喫できる地域とします。

②神戸を特徴づける「シンボルエリア」の魅力向上 ア. 緑のシンボルエリア

六甲山系の緑のシンボルエリアにおいて、眺望景観や豊かな自然環境を保全・育成するとともに、レクリエーションや環境教育の場としての活用をはかります。

また、事業者と連携・協力し、六甲山の観光施設を有機的に結ぶ交通環境の形成を促進します。

イ. 海辺のシンボルエリア

須磨から舞子海岸の海辺のシンボルエリアにおいて、美しい白砂青松の海岸景観の保全・育成をはかるとともに、親水性を高める海浜の保全や緑化の推進、レクリエーションの拠点としての公園・緑地の充実などにより、魅力の向上をはかります。

③自然とふれあう「憩いの拠点」の整備・活用

しあわせの村や有馬温泉、総合運動公園などの主な公園・施設を、福祉、保養、スポーツ・レクリエーションの場として活用します。

しあわせの森と国営明石海峡公園神戸地区では、民・学・産と行政の連携によって、森の手入れや環境学習、森林レクリエーション、里地・里山農業体験・維持管理作業などを通じ、自然とふれあうことのできる場所として整備を進めます。

④にぎわいのある空間づくり

都市空間の中で大きな要素を占める道路空間を、車や人などを通す交通機能のための空間としてだけでなく、オープンカフェやイベントなど、にぎわいづくりのための場として積極的に活用し、魅力的な空間をデザインしていきます。

⑤身近な公園や空き地などの活用

身近な公園や空き地・空き家などを、地域における交流やにぎわいづくりのための場として、住民自らが管理・活用する取り組みを推進します。

また、農村地域におけるコミュニティの形成や活性化のために、地域との協働により、地域住民の交流・スポーツ・レクリエーションの拠点となる場の創出を進めます。

(3) ユニバーサルデザインの空間づくり

高齢者や障害者、乳幼児連れの方、外国の方など、誰もが暮らしやすく訪れやすいまちをめざして、人々が持つ様々な個性や違いをこえて、一人ひとりが互いに多様性を認めあい、はじめから、誰もが利用しやすいようにまちや建物などをつくる「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れた空間づくりを進めます。

①施設や移動空間における取り組みの推進

市民や来訪者など誰もが安心して快適に過ごせるまち、みんなに優しいまちをめざして、多くの人が利用する施設や、各施設をつなぐ移動空間などにおいて、段差の解消や案内サインの設置などのハード整備とあわせて、施設やルートの情報発信などソフト面の取り組みを進めます。

ア. 多くの市民や来訪者が利用する施設

多くの市民や来訪者が利用する駅などの旅客施設や商業、観光施設などにおいて、公共施設とともに民間施設の協力のもと、誰もが使いやすい多機能・多目的トイレ「こうべ・だれでもトイレ」の整備を進めます。

また、取り組み事例の紹介や情報交換の場として、事業者や各種団体を対象とした「こうべユニバーサルデザイン都市づくり交流会」を開催し、事業者や各種団体の自主的な取り組みを支援します。

市民が日常生活で利用する公園では、スロープの設置や段差の解消、階段への手すりの設置など、バリアフリー化に努めます。



イ. 住宅や各施設を結ぶ移動空間

歩道の整備やベンチなどのくつろぎ空間の整備を進めるとともに、高齢者や障害者、外国人など様々な立場の方に配慮した案内サインや誘導サインの整備などに取り組み、誰もが回遊・滞在しやすい空間づくりを進めます。

ウ. 公共交通

交通事業者等と連携・協力しながら、ノンステップバス、福祉タクシーなどの運行や、わかりやすい交通情報の発信に取り組みなど、外出しやすい環境づくりを進めます。

エ. 利用者などへの情報発信

市民や来訪者に対して、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設や移動ルートを案内するなど、情報発信の充実をはかります。

すまいのユニバーサルデザインについても、事業者への普及啓発や市民への情報発信の充実、相談体制の強化などを通じて、市民や事業者の自主的な取り組みを支援します。

②多様な文化が共生する生活環境の整備

神戸は国際港都として発展し、多様な文化が集積した都市です。特に、外国の方が多く生活している六甲アイランドや北野、長田南部などにおいて、外国人コミュニティの支援、多言語サインの整備など、多様な文化に対応できる空間づくりを進めます。

(4) わがまちの魅力を磨きあげる取り組み

①景観まちづくりの支援

地域みなさんが自主的にわがまちの景観形成の検討を進め、景観形成市民協定や地区計画などの地域ルール策定や、ルールに基づいた活動などを支援していきます。

そして、地域活動と連携して、飾花や緑化などによりまちに彩りを加えるとともに、放置自転車対策など道路の適正な管理に取り組み、おもてなしの心の感じられる居心地のいい空間づくりを推進します。

また、景観に対する関心を早い時期に持てるように、子どものころからの景観教育にも取り組みます。

<まちかどでのワークショップ（岡本地区）>



②まちの美^{みりょくか}緑花の推進

花や緑と身近に触れあえる機会を通じて住民相互の交流がより一層高まるよう、空き家や低未利用地を、コミュニティ花壇や菜園など地域の共用空間として有効活用をはかります。

また、「緑のカーテンプロジェクト」など、景観にも配慮した建築物の屋上緑化や壁面緑化を進めます。

風致地区周辺など、社寺林や屋敷林などの緑が多く集まったエリアは「緑地保全配慮地区」に指定し、地域住民による「緑をともに守り育てる」という共通認識のもと、協働と参加によりまちなみ景観の保全・育成をはかります。

<まちぐるみ花のまち事業（新長田地区）>



③景観としての生活文化・活動の振興

景観は、自然地形や建物・施設などの有形物だけでなく、それらを舞台に日々活動する市民みなさんの姿や様子、さらにまちの歴史や文化などが重なり合って形づくられます。風土・風習や生活文化、市民気質や、おもてなしの気持ちなどが現れた、地域の活動やイベントなどの振興をはかりながら、神戸らしい文化的景観を大切に守り育てます。

<南京町・春節祭>



都市デザイン方針図

凡例	
神戸らしい眺望景観	
景観計画区域	
景観形成地域	
まちのゾーン	
田園のゾーン	
みどりのゾーン	
河川	
環境形成帯	
シンボルエリア(緑・海辺)	
都心・ウォーターフロント	
憩いの拠点	

都心・ウォーターフロント周辺の拡大図

